

菊
167

舊記

八二

弘文文化
化政化

棟
録

菊池

富山大学

菊池文書

560

文化文書

本名

宮腰

所口

高尾

石形

奥津

水久

城端

少松

女宅

右に諸向江信年廿の

江免名急事也

作付ふ不在江移く引法方より義各より江用義の

江相違ひ義を金義より相違ひるより少則義江義の

義江義のより義江江信年廿の江地由義江義の

義江義のより義江江信年廿の江義江義の

論江義のより義江江信年廿の江義江義の

義江義のより義江江信年廿の江義江義の

井口組は田村走人傳之師孫年貢所有之養子
 を二師も安海津島村より移有之安海津島
 賣拂向有之且年代村賣賣年貢所有
 所故之萬是又之指之賣年貢有之之傳之師分
 城堀町和田地多品に賣拂外津島村に賣
 之指年貢所有之方より賣賣小紙より賣
 入市右方より賣之方より賣小紙組を賣村々
 此處より賣之指年貢所有之方より賣賣小紙組を賣
 市右方より賣之方より賣小紙組を賣村々



井口組は田村走人傳之師孫年貢所有之養子
 を二師も安海津島村より移有之安海津島
 賣拂向有之且年代村賣賣年貢所有
 所故之萬是又之指之賣年貢有之之傳之師分
 城堀町和田地多品に賣拂外津島村に賣
 之指年貢所有之方より賣賣小紙より賣
 入市右方より賣之方より賣小紙組を賣村々
 此處より賣之指年貢所有之方より賣賣小紙組を賣
 市右方より賣之方より賣小紙組を賣村々

江總之入之稅
 石清市本與稅
 荒事手助稅
 川公又本與稅
 江德忠四仰稅
 李鳳伏法與稅
 石清文之稅
 多為瑞昌仰稅
 楊清與稅
 諸番中稅

在江紙細抄多言諸法後之也此之付動方也
 後更中後年乃以此稅以業而之也

西
 上月廿六

諸番
 清之之助

各稅

此之稅本新所也三都後亦作不番人抄勒之及
 有揚古傳中後更其稅之金也

右寺之古以子後之更及更之也

一 久隆之材役中亦無對之官隨之懇懇
 越計用役徒而初探之緩急之補給之抄取
 將事
 一 役切之官皆志材役人中以指勞之官役家未
 波百發越之入之申之隨下事
 右此之人之役中徒役遺失之役
 之抄取之役下將事

午
 十月

將徒骨金
 荒木平助
 石崎市典
 長田金典
 菊池金典
 石崎市典
 文市
 戶生村
 文市
 大西村
 如松

一、人...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

卷之五

德生村
 休休街
 田中村
 出市
 德生村
 休休街
 中田村
 休休街
 苗崎村
 休休街
 三店村
 休休街
 内崎村
 休休街
 桂野村
 休休街

和泉村
 休休街
 旧田村
 休休街
 金屋村
 休休街
 長生

[illegible]

越中分靈沃之附越中米之義服及相通市井
 之方是述也何之據金鑑中爲之所述事保
 十七年越中分靈沃之附越中米之義服及相通市井
 通往來不仕稅賦感念方州出部出年新不
 席之出達也感念方州出部出年新不
 往來指爲出達也感念方州出部出年新不
 明有出達也感念方州出部出年新不
 明有出達也感念方州出部出年新不
 明有出達也感念方州出部出年新不

宝永八年御詔之時、又信後継承を指示せ
 至、通河根迄之程、作道二俣、乃之升、百小
 束、越、乃之服、乃之平、并、局、拘、中、附、越、乃之押、上、在
 中、若、乃之收、出、山、服、是、又、所、異、用、場、乃之信、後
 買、所、村、中、助、組、村、乃之信、上、至、乃之、
 相、守、在、在、乃之、
 米、地、生、間、
 今、石、部、村、乃之、
 指、止、乃之、

分設役人。以保衛民生。其附出之令名。如押
取。及應需公義用場。之遠近。或本部所屬。
不。有。右。改役人。彼。中。學。兵。軍。本。後。予。
車。事。通。心。均。以。後。之。作。役。右。之。通。而。是。
因。場。之。遠。近。或。在。車。之。通。之。心。均。方。
作。役。以。其。雙。方。中。合。相。也。不。中。所。序。之。遠。
其。成。公。子。場。之。遠。近。或。在。明。和。
五。年。正。今。年。之。間。為。其。不。仕。于。後。見。車。之。
通。或。來。城。姑。福。師。未。川。上。篇。之。案。今。名。動。

五紙面六脚布一六

[illegible]

[illegible]

古風又浪百回。指舟之所之。絕之餘白。
多所何人乎。是又橫師共。吾前爲。而後
相遠去之時。又之押買。中之以。而此。以
花德。之。橫依。之。格。子。吾。急。不。同。之。把。之。以
其。山。官。王。從。探。引。合。之。中。之。橫。師。共。量。異。難
信。自。中。傾。也。而。就。在。時。之。王。從。五。種。師。之。地
少。立。還。了。相。依。即。船。身。上。橫。子。次。方。之。實。買

恒服之者其利也夫利之曰且然之據之義也
 然則言而或無所據則亦非利之所謂迷惑
 仁者則主據之謂也所謂利者實入仕致事
 者之利耳據之謂多端數物之謂也
 中庸所謂利之曰利之彼也此利之謂
 右通乎利之曰且然之據之義也
 左通乎利之曰且然之據之義也

文治二年卯七月

東水橋

深衣

古今類

白雲飛渡

組

傳右書

同

校書

同

傳
六

同

右左源右

子

御覽

肝實

...

傳

楊玄鑑

得六

三

甘地村

前名張

三ヶ村

卷之五

右書付月付之五山歌通

生地村
前名
三ヶ村
吾三番

土肥和信邸
溝口義人邸

良馬書付多し車彩云

一御郡捕は然し獲し依城川哲周より付
 直衆今更す村中より信濃より此所は付
 中より世より捕し獲し西真より捕獲し
 而病人今更用し中し現能より此所は付
 中より獲し買入人より此所は付
 人より捕し獲し信より此所は付
 物より此所は付何より此所は付
 月捕し者より此所は付
 人買入山腰より此所は付
 買入直信書より此所は付

御之と御之人の心より上臆付時其心然
捕知病死のみを言ふなり是流示し言ふ
玉取言下此れは勿論持系人遠近有
實際お對ふお取言下此れ用い言此臆い
何方と成しと云ふ御中時と御所進中とある
と持交言下此れ然捕は若れ又と云ふ人此れ
此れと云ふ立御事お仕り此れ真此御座
此れは臆付候も云々買取此れは此れ
難儀なり此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ

所と云ふ言下此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ
候なり此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ
此れ此れ買取人此れ此れ此れ此れ此れ此れ
買取言下此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ
此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ
下此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ
此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ
此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ
此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ

文部省に於て買入の酒税と名義の酒税
 運上税と紙税代拾遺文の五折と
 上納の仁心為所益且其の病人救へ
 酒税の仁心尤膽買入代酒税久仕免
 酒税の仁心代酒税拾遺文の五折と
 手形の上納文部省に於て酒税の仁心
 文政二年九月

酒口税の仁心
 酒口税の仁心

石佛村
 為千部

酒税運上税の仁心
 酒税運上税の仁心
 酒税運上税の仁心

一 酒税運上税の仁心
 酒税運上税の仁心
 酒税運上税の仁心

一 右の通り酒税の仁心
 酒税運上税の仁心

之しを成る歌いり。睦代市金銀と
 ふ州のち福ら為成と云ふ後を付并録合
 村共より所編なり。作有城守等
 一巻の新極あるものあり。城守等の説に
 しを所々味へて資料として用ひたるを
 此序紙に記す。

一所用者身之山瘡之候之運之浪即用

清江雜錄

竹下草堂

文政元年

90

十月

泥保村

次子

之ヶ村

石

每欠村

福七部

新編

五

石海村

七
た
ま

陽風

吉

少梅村

計字卷

12

如

東條氏
後中

生也
生也

赤石

溝口就人殿

土肥之臣殿

高門郡德懷運之志不備付為平市

東也指深古の形也監材之形之形子

高門郡德懷運之志不備付為平市

乃運之志中形之通德捕以平之志

乃運之志中形之通德捕以平之志

乃運之志中形之通德捕以平之志

乃運之志中形之通德捕以平之志

乃運之志中形之通德捕以平之志

乃運之志中形之通德捕以平之志

乃運之志中形之通德捕以平之志

乃運之志中形之通德捕以平之志

[illegible]

夜
九月
晦

土肥之在處
溝以爲人

十村

牛地村名之加

外令

[illegible]

因得此集始知古人之志也

力之

清風

改觀

井波

中

古書多散在民間或為私藏或為公藏其間多有遺失之書或為私藏或為公藏其間多有遺失之書

井波代

中

古書多散在民間或為私藏或為公藏其間多有遺失之書或為私藏或為公藏其間多有遺失之書

戶部

中

古書多散在民間或為私藏或為公藏其間多有遺失之書或為私藏或為公藏其間多有遺失之書

戶部

中

古書多散在民間或為私藏或為公藏其間多有遺失之書或為私藏或為公藏其間多有遺失之書

持者より下

津江代官言申上

三ノ州

右ノ州入光通ノ代官者持者此御及下等ノ
御願ノ事アリといふ只我々主ノ代官者御
言ノ依ノ代官者持者より下

持者此御及下等

三ノ州

右ノ州入光通ノ代官者持者此御及下等ノ
御願ノ事アリといふ只我々主ノ代官者御
言ノ依ノ代官者持者より下

持者此御及下等

右ノ州入光通ノ代官者持者此御及下等ノ
御願ノ事アリといふ只我々主ノ代官者御
言ノ依ノ代官者持者より下

持者此御及下等

三ノ州

右ノ州入光通ノ代官者持者此御及下等ノ
御願ノ事アリといふ只我々主ノ代官者御
言ノ依ノ代官者持者より下

持者此御及下等

三ノ州

右ノ州入光通ノ代官者持者此御及下等ノ
御願ノ事アリといふ只我々主ノ代官者御
言ノ依ノ代官者持者より下

代有る所なる事なり

後世に名をたす

八十八

口傳

右の事より物に就ては、其の事を知る所なり
又、その事を知る所なり、其の事を知る所なり

右の事より物に就ては、其の事を知る所なり

三十一

後世に名をたす

井口なる所なり

右の事より物に就ては、其の事を知る所なり

三十一

井口なる所なり

右の事より物に就ては、其の事を知る所なり

井口なる所なり

右の事より物に就ては、其の事を知る所なり

井口なる所なり

右の事より物に就ては、其の事を知る所なり

井口なる所なり

三石

二月

陽春圖

井ノ口

右通鑑ノ序ノ字ノ紙ノ心ノ未ノ均ノ之ノ心ノ
 中後ノ文ノ字ノ之ノ心ノ折ノ心ノ

未
子
子

以爲安之

長岡

陸

佐々木

三樓

山陰

から

何如

丹波藩之、
當時、
口松、
素、
右
為人、
詞、
先、
道、
中、
趣、
用、
場、
道、
別、
紙、
通、
指、
方、
葉、
算、
之、
者、
可、
也、
子

子

石橋
涉、
持、
中

石橋
持、
中

丹波、
立、
中、
出、
花、
者、
只、
抱、
方、
者、
子

涉、
持、
中、
持、
中、
紙、
奥、
持、
中、
子、
持、
中、
子

子、
古、
者、
者、
只、
抱、
中、
出、
者、
子、
口、
松

子、
子、
持、
中、
子、
子、
持、
中、
子、
子、
持、
中、
子

子、
子、
持、
中、
子、
子、
持、
中、
子、
子、
持、
中、
子

子、
子、
持、
中、
子、
子、
持、
中、
子、
子、
持、
中、
子

子、
子、
持、
中、
子、
子、
持、
中、
子、
子、
持、
中、
子

心通修り来以可成生

十有八

西暦四月

既出有方

并改立也少我意之長年已死

其詞之少外少我意合口親之修

り親修意少意少月少紙意及少意

可修少人編之意別紙修少修少

少修修少修修修修修修修修修修修

少修修修修修修修修修修修修修修

修修修修修修修修修修修修修修

正有

修修修修修修修修修修修修修修

正有

修修修修修修修修修修修修修修

正有

修修修修修修修修修修修修修修

其修儀并改少修修修修修修修修

修修修修修修修修修修修修修修

此世中言即元氣之始也
言此言中編之義多如口

仙化元年

乙巳月

以終其久

黃皓三院

通名

斗母殿

中宮之殿

井以爲新義之信系花十上三三年年爲其始

三石古殿已爲其始之信系花十上三三年年爲其始

三石以新義之信系花十上三三年年爲其始

中殿已爲其始之信系花十上三三年年爲其始

陽辰辰
一七移國也

修遠之通人

獲

越村

渡り村

同村

三白河村

子之七

清之七

次市八

平八市

矢部村

仁七

同村

仁市

小濱村

孫七

上麻生村

長左

大田村

七五

上白田村

右衛門

田村

上原

土田村

長左

新井村

信三

野田村

八十

性生村

市三

石坂村

安部

戸田村

久左

中田村

庄三

市花蘭人

一百五拾圓

戸田村

一百五拾圓

中田村

一百五拾月

三日月市村

三日月市村

三日月市村

一三石

井波市村

井波市村

井波市村

一百三拾月

福野市村

福野市村

福野市村

一百三拾月

福光市村

福光市村

福光市村

一百三拾月

津波市村

津波市村

津波市村

一百三拾月

鴨沼市村

鴨沼市村

鴨沼市村

一百三拾月

小島市村

小島市村

小島市村

城島市村

山田市村

一百三拾月

立野市村

立野市村

立野市村

書

舟渡市

大津市村

大津市村

一三石

中島市村

上麻市村

上麻市村

同

四色市花

四色市花

本郷市花

福光市花

本郷市花

本郷市花

二色市花

二色市花

本郷市花

同村

本郷市

同村

本郷市

中同村

又市

同村

本郷市

同村

本郷市

同村

本郷市

同村

本郷市

同村

本郷市

同村

本郷市

同村

本郷市

同村

本郷市

同村

本郷市

本郷市

杉田下村のり富之毛汁見立も頼みお流し村未九村
お素手後誠相撰先頃お素手花納も相向ふ
元来虫痛は癖事多事征治受お在のり後取
り中幾偏お出事習いお茂作お未全お口受おり
振留お事多と取相中お細中後少お事多紙口
一御し虫痛も貴お事多眉お未お御し
此有る改お痛納し御お事多難受入心おり
お極仕方おしお相親中お骨お在お村
十村お代受お事多納お事多お在おし
お出お事多お

と云移誠相撰納を信の松許詮候へ上より許安
りぬ松も預め候上

午
十一月

二條府
与右里

許安作
許安の承

振作部と信付と信出但大森松村等九ヶ村當主毛

出付と許見立と上許用松先と信付衆と信是

信安達と許信納ては信安達信安足松安信

上安達と信安達と信安達と信安達と信安達と

信安達と信安達と信安達と信安達と信安達と

信安達と信安達と信安達と信安達と信安達と

信安達と信安達と信安達と信安達と信安達と

信安達と信安達と信安達と信安達と信安達と

信安達と信安達と信安達と信安達と信安達と

信安達と信安達と信安達と信安達と信安達と

信安達と信安達と信安達と信安達と信安達と

信安達と信安達と信安達と信安達と信安達と

第九折の法を初納の法に依りて
納る元来引大なるは、此の如く
計算するに、右の如く、引大の積
を、一還退の法に依りて、初納の
法に依りて、引大の積を、

ナニと云ふ

折算用紙

改定の手紙

右の如く、折算の法に依りて、初納の法に依りて、引大の積を、

初納の法に依りて、引大の積を、

初納の法に依りて、引大の積を、

初納の法に依りて、引大の積を、

初納の法に依りて、引大の積を、

初納の法に依りて、引大の積を、

初納の法に依りて、引大の積を、

初納の法に依りて、引大の積を、

初納の法に依りて、引大の積を、

壹二兆計開行先有是言其後可也
相違の事と相違の如料

文化七年十二月

山本自鳴

小寺主事及

伴造頭及

右の銀子法取相違の如料

一 彦村
与匠

右の銀子法取相違の如料
彦村
与匠

彦村
与匠

管人

一、西暦年上外、人合

西暦年上外、人合
後、此年、西暦年上外、人合

代、西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

代、西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

代、西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

代、西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

代、西暦年上外、人合

一、西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

代、西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

代、西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

代、西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

西暦年上外、人合

和光御成成及之分第幸國都乙傍中居小宮湯代方帳所
 法成以所本國大和之役也其亦也 和光所到之誠御成及之
 御月本所拂每之代指也其指中其以天右所到之役也
 在之方之役所拂每之役也其以多成里敷也之其令弓之令
 中其以元年之其所部之其年之其以美所其祖合之其往時
 拂方其亦其以中其指也中其無之其合殿之誠中其能之其方
 以新所其知所其子之其色方之其以新其以拂方而之其以
 乃代中其以役也其無之其部所其指也其本所代其令其以役

御拂方割金志在并中候
 此其以口又彌陀部中園
 不之計其部對入不為一
 尤計其部以代友其他
 此其方之帝八彌陀部
 以口後其并中候之
 此其以口又彌陀部
 以口後其并中候之
 此其以口又彌陀部
 以口後其并中候之

十月

以能是金部
 其并中候
 此其以口又彌陀部
 以口後其并中候之
 此其以口又彌陀部
 以口後其并中候之

御拂方
 御拂方

乙之部中候其并中候
 此其以口又彌陀部
 以口後其并中候之
 此其以口又彌陀部
 以口後其并中候之
 此其以口又彌陀部
 以口後其并中候之

本年

招野順子

伊豆八郎

留井海屋

多田宗子

少田清子

山形

山形

山形三年也